

あのはな

千葉大学医学部同窓会報 第89号 題字 鈴木 五郎

編集兼発行者

千葉大学医学部

あのはな同窓会報編集部

〒280 千葉市亥鼻1-8-1

千葉大学医学部内

あのはな同窓会

電話千葉(0472) 22-7171内線2038

井出源四郎学長(昭和19卒) 再選される

去る六月十二日、任期満了に伴う学長選挙が行われ、井出学長の再選が決定した。千葉大学の規程により、再選の場合の学長の任期は二年、来る八月一日より昭和六十二年七月三十一日までである。六月十二日は、梅雨時には珍しく終日まさに一片の雲もない日であつたが、穏やかな夕日のさし込む学長室で、井出学長はゆつくり

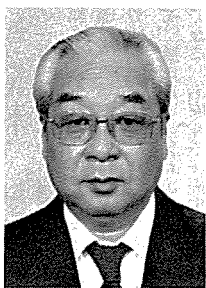


と静かに語った。「いろいろの評価はありましたが、過去四年間、一生懸命やってきました。今日はまだ多くを述べられませんが、あのはな同窓会の先輩後輩諸先生に次の様にお伝え下さい。井出は、一方の肩に批判を、他方の肩に期待を負って、これからの二年間を、実質四年にすべく鋭意努力を重ね続けまうと。」

昭和五十七年八月一日以来の井出学長第一期の間に、亥鼻、西千葉、松戸に分散する千葉大学キャンパスは、いくつかの建物の新築を含め、かなり肌理細かい整備が進められ、柏地区に新農場敷地も

確保され、安房小湊にある臨海研究所は水産大学から千葉大学に移管された。今、おそらく井出学長の頭の中には、いささか困難な問題ながら、西千葉キャンパスに隣接する地区の移管整備問題もあるのではないかと思う。過去四年の間に、法経学部、文学部に修士課程が出来、理工系の学部博士課程が総合大学院として設置されることになったことは大学としての体系の整備の上で重要なことであつた。かつて初めて学長に就任の

木村 康教授(昭和24卒) 次期医学部長に決定



七月三十一日で任期満了となる吉田 亮医学部長の後任選出が、去る六月二十三日(月)に行われた。午前中の助手以上の文部教官による予備選挙、同日午後の教授

会における本選挙の結果、木村康教授(法医学)が次期医学部長に選ばれ、八月一日付で就任されることとなった。木村教授はその抱負を次の様に

折「学内充実に最大の努力を傾注して総合大学としての実質を整備する」(同窓会報第八十一号・昭和五十七年八月二十五日)と述べた井出学長の方向は再選後も貫かれるものと考えられる。行政改革の進行と共に学内の諸機構の見直しが進められ、入学試験の改革等を含めて教育全般の改革が叫ばれている折から井出学長の活躍が期待される。

【井出源四郎学長略歴】大正九年長野県生まれ。旧制松本高校より本学に進み、昭和十九年卒。昭和四十年教授(肺研)。昭和五十二年医学部長。昭和五十七年八月以来学長。

述べられた。

これから二年間、医学部長として医学部の運営に携わることになりました。現在、国を挙げて教育の改革が叫ばれておりますが、医学も例外ではありません。極めて酷しい時代に臨んで行きたいは三本の柱をもつて対応して行きたいと考えております。まず第一には専門課程における教育の充実です。包括医療や全人的医療に視点をおいたカリキュラムを進めたい。

第二は大型研究プロジェクトの推進です。各講座、研究施設の個々の研究の推進は勿論ですが、研究機器の整備統括を図り対処したい。

昭和六十一年度 あのはな同窓会総会開催

昭和六十一年度のあのはな同窓会総会は六月二十一日(土)、都内の椿山荘で東京のあのはな会担当の下に開催された。



総会には村山 智常任理事の司会で国井光智副会長の開会の辞と小林金市会長写真の挨拶により始められた。吉田 亮医学部長の医学部近況報告、萩原彌四郎常任理事より昨年度の会務報告があった後、60年度の物故会員69名の冥福を祈り黙祷を捧げた。次いで小林会長を議長に選出して議事に移った。石川清文常任理事より昭和六十年年度決算および昭和六十一年予算案(紙面の都合で次号に掲載)の提出と説明があり、二、三の質疑の後、いずれも原案通り承認された。嶋田宗之副会長の閉会の辞により総会は無事終了した。

第三には教育関連病院の確保です。医師過剰時代を迎え、学生や医局員に不安を与えてはならない。卒後教育の充実を図るためには国立、公的病院をはじめ民間大病院を関連病院として確保しなければならぬ。

しかし言うは易く、行うは難しで、これの実現は学内は勿論同窓各位のご協力を仰がねばならない。どうかよろしくお願い申し上げます。

【木村 康教授略歴】大正十三年生まれ。旧制山形高(昭和20)、千葉医大(昭和24卒)。法医学教室の助手(昭和27)、講師(昭和34)、助教(昭和36)を経て教授(昭和46)。千葉大学評議員、千葉県医師会副会長、千葉県弁護士会懲罰委員、健康保険千葉県医療協議会委員を歴任。

懇親会は貫洞一夫東京あのはな会理事の司会の下で、華やいだ雰囲気の内に進められた。今回再選を果たされた井出源四郎千葉大学長や加納六郎東京医科歯科大学長のお話し等々、出席者の和やかな交歓が続いた。次回の総会開催地は千葉の予定である。

新任教授紹介

本学第一病理学教室、新設された帝京大学医学部附属市原病院の内科、小児科学、放射線科学および泌尿器科学教室の教授に就任された先生方に抱負を語っていただいた。

なお、渡辺昌平教授の退官に伴う肺研第二研究部門（呼吸器内科）の後任教授の選考が現在進められている。

教授就任挨拶

病理学第一講座

三方 淳 男（慶応大・昭32卒）



この度、病理学第一講座の担当として着任いたしました。この教室は瀧沢教授、井出教授と代々大変立派な病理学者が主宰して来られた所で、浅学菲才の私にその任が果たせるかどうか、誠に不安ですが、同時に、そのような名誉の職に選ばれた事を、心より誇りに思っています。幸いな事に、着任以来一ヶ月余、近藤教授以下、教室員の皆様を始め、教室諸先輩、臨床各科の先生方、事務局の方々まで、関係各位の暖かい御指導と御協力を賜り、大過なくすこすことが出来て、大変感謝しております。

今まで私は、主にリンパ節の炎症性病変や悪性リンパ腫の病理学

研究も盛んで、腫瘍学の先端的な仕事が行われています。我々も、従来の形態学のための研究や診断から、より客観的で、少しでも本質的なものにせまる研究へ進みたいと思っています。

一方、リンパ節の病理は生検材料を対象とした、いわゆる臨床病理学そのものであります。この面では、臨床各科との連絡を密にすることで、臨床側の要望に応えることができる、治療や予後推定に役立つ病理学を目指しています。一人の病理学者があらゆる病変の最新知識を持っていて、臨床側の要望に対応できるという時代はとくに過ぎ去っています。これからは、医療を中心に臨床と基礎が効率よく連携して行くシステムを創らなければならぬと思っています。私もこれらの分野で少しでもお役に立てばと思っています。何卒よろしく願います。

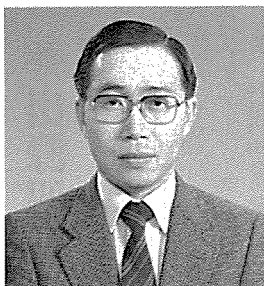
帝京大学医学部

附属市原病院

心脈管管理システム「ハートウオッチ」

帝京大学市原病院内科

道場 信 孝（昭35卒）



この度、千葉大学医学部の御推薦により、帝京大学医学部に新設された第三内科講座（清水直容主任教授）で循環器部門を担当することになりました。丁度十年前に千葉大学を辞して以来、再び千葉へ戻ってくることに、感慨深いものがあります。私は昭和三十五年に千葉大学を

帝京大学医学部附属市原病院小児科を担当して

帝京大学市原病院小児科

寺 島

周（昭38卒）



帝京大学医学部附属市原病院は御承知の如く、本年五月一日に開院し、千葉県における中心的総合医療施設の一つとして機能し始めました。千葉大学医学部出身者が主体となっている五科の内、私は小児科を担当することになりました。教授就任に際しまして、母校小児科中島博徳教授、医学部長吉田 亮教授、前任校埼玉医科大学小児科前田和一教授を初めとする多くの千葉大関係の方々より賜った御厚情に感謝いたします。分院とはいえ教授の肩書は、学生時代には授業出席日数より山歩きの日々が多く、成績は最後尾付近と自認する者にとっては仲々重く感じます。開院後約一ヶ月となり帝京大学板橋キャンパスよりスライドして来られた医療、事務および中検関係の人々との実質的交流もまずまずといったところで、スペースシャトル打上げ準備にも似たせわしい開院過程に生じた混乱や、外來、病棟運営上の意志疎通不足などが全て解消されたわけではありませんが、猪股弘明助教授（昭48卒）、牛久英雄講師（群馬大昭53卒）、岡嶋良知（昭58卒）、竹内明男（昭58卒）両助手の緊密な協力のもと、外來、病棟共に未熟児を含む重症患者が未だ居ないこともあり、スタートの時点としては大過なく、急性肺炎、川崎氏病、敗血症、不明熱等の患児の治療を行っております。県内に幾つかの他大学医学部附属病院が既存しておりますが、各科主要スタッフの充実度、距離などから千葉大との間に有機的な太い繋がりができることを強く望んでおります。小児の地域医療の一端を担うものとして、今後とも一層の御指導、御鞭撻の程お願い申し上げます。（新任教授紹介は三面に続く）

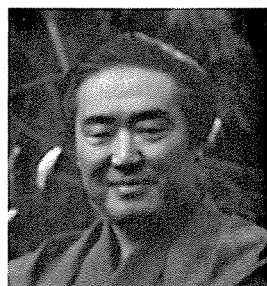
千葉大学医学部附属診療放射線技師学校創立30周年を迎える

本学に昭和32年に設置された診療放射線技師学校（校長・有水昇教授）は、今春めでたく創立三十周年を迎えた。この間、約五百名の卒業生を世に送り出したが、彼等の各診療・研究機関での優れた仕事ぶりは広く認められる処となっている。六月二十八日（土）、千葉市民会館で記念式典、特別講演等が盛大に催された。

生れ故郷を離れて

帝京大学市原病院放射線科

川 名 正 直 (昭39卒)



まだ病院までのバスはない。放射線科の助教の小林茂雄君(昭42卒)は順天堂大の白壁教授の下で小腸を中心とした消化管のX線診断を専門として居りました。講師の山本 勇君(昭46卒)は虎の門病院の中島哲二郎長のもとで食道癌、胃癌等のX線診断を熱心に行っていました。助手の平田 貢君は本学昭58卒です。技師は十名で千葉大学病院に三十数年間に亘って勤務していた伊場昭三君が技師長として参加し、技師をよくまとめてくれています。あと看護婦二名、受付三名、タイピスト一名というスタッフです。まだアイントープ検査、リニアック治療は始まって居らず、X線診断、CT検査だけでなく、だんだんに軌道のついていく事と思つて居ります。スタッフの和をモットーとし、積極的に放射線診療活動を行なつていきたいと考えて居ります。これまでの千葉大学医学部の諸先輩ならびにあの同窓の皆様の御交誼、御厚情に感謝し、今後共一層の御支援、御教導をお願い申し上げます。

教授就任あいさつ

帝京大学市原病院泌尿器科 伊 藤 晴 夫 (昭39卒)



三月一日より帝京大学市原病院に赴任いたしました。これも諸先生方の暖かい御指導のおかげと感謝いたしております。私は泌尿器科に入局後、恩師百瀬剛一教授の御指導を受け、泌尿器科全般について学ぶとともに男子不妊症、ついで腎結石についての研究をはじめました。また、二年間、三浦義彰教授の生化学教室で生化学の手ほどきを受けまし

師長として参加し、技師をよくまとめてくれています。あと看護婦二名、受付三名、タイピスト一名というスタッフです。まだアイントープ検査、リニアック治療は始まって居らず、X線診断、CT検査だけでなく、だんだんに軌道のついていく事と思つて居ります。スタッフの和をモットーとし、積極的に放射線診療活動を行なつていきたいと考えて居ります。これまでの千葉大学医学部の諸先輩ならびにあの同窓の皆様の御交誼、御厚情に感謝し、今後共一層の御支援、御教導をお願い申し上げます。

白壁彦夫教授 キヤノンメダルを受賞

癌研附属病院院長、内科

順天堂大学医学部消化器内科、白壁彦夫教授(昭20卒)は、本年一月十九、二十四日、メキシコアカプルコで開催された第十五回アメリカ消化器放射線学会(Society of Gastrointestinal Radiologists)において、Waller B. Cannon メダルを受賞された。

本メダルは、一八九八年、ガチヨウの食道の蠕動運動を初めてX線透視下に観察したハーバード大学の生理学者 Waller B. Cannon の業績を記念して設けられたものであり、消化器放射線学の分野で

これらの経験を生かし、今後とも努力してゆく所存でございます。帝京大学は新しく、活気がありますが、ときに千葉大学に來ますと、伝統に支えられた重みを感じます。これは今までに感じたことのない新しい発見であります。千葉大の一層のご発展を祈念する次第でございます。

市原病院泌尿器科はスタート時は六名の小所帯でありましたが、幸い柳 重行教授(昭50卒)、山口邦雄講師(昭53卒)をはじめ優秀な人材にめぐまれ、全員はりきっております。今後も、千葉大学の一関連施設として仕事を進めて行きたいと考えております。何とぞ、よろしく御指導・御鞭撻の程お願い申し上げます。



川村光毅教授 (昭36卒)

山陽放送学術文化財団より研究助成金

川村光毅教授(岡山第三解剖学教室)は、本年五月第17回谷口記念賞を受賞された。本賞は瀬戸

放射線医学総合研究所長に 寺島東洋三氏(昭24卒)昇任

科学技術庁放射線医学総合研究所長、熊敏敏氏の退官にもない、去る六月一日付をもって同研究所科学研究所官(副所長)の寺島東洋三氏の昇任が発令された。

寺島所長は千葉医科大学を昭和24年3月に卒業、インターンを経て細菌学教室(現在の第一微生物学教室)に入り、川喜田教授のもとで溶原性ファージの研究を開始。

教授、昭29卒)および筆者の四名までが、本学第一内科の出身であることである。キヤノンメダルの受賞式は学会五日目のパンケットの最後のイベントとして行われた。メダルの授与の際に、今年度の会長、Dr. Igot Lauder (ペンシルバニア大学)は、白壁教授の消化管二重造影法に関する仕事が一歩の大きな賞賛した。これに因って白壁教授は、今後は消化管の変形学に虚血性変化の概念を導入することによりX線診断に新しい局面を開きたいとの決意を述べられた。内沿岸の大学、研究機関で行われた優れた研究に対して、山陽放送学術文化財団が毎年贈っているものである。今回の受賞の対象となった川村教授のテーマは、「脳組織の移植と神経系の可塑性の研究」であった。

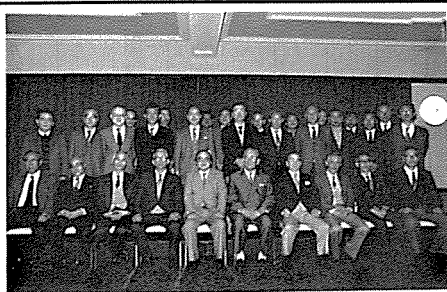
るのはな会支部だより

君津郡木更津市

ゐのはな会

昭和六十年度の君津郡木更津市
ろのはな会は、去る二月二十二日
に木更津温泉ホテルで、千葉大学
生物活性研究所長新井
お迎えて開催された。新井先生
は、「真菌症の現況と化学療法」と
題して、先生のライフワークであ
る真菌症の最近の動向、進歩など
御研究のアウトラインについて解
かりやすく御講演され、30余名の
出席者に深い感銘をあたえた。

総会では鈴木達也新会長（昭21
卒）の挨拶、六十年度に亡なられ
た大津、小樽両先生への黙祷、そ
して久米通生幹事（昭33卒）から
赤字の会計報告があり、会費の値
上げが討議され可決された。



三輪先生、市川先生、横須賀先生、川本先生（前会長）など大先輩を交へ、新規加入の諸先生の紹介等、なごやかに懇親会が進められた。木更津地区は、今年は東京湾横断橋の話題、南房総の開発問題、また昨年の寄生虫学教室小島教授により小櫃川流域の日本住血吸虫と宮入りの発見など千葉県下でもいろいろと話題の多い地区であり、今後の発展が期待される。房総地区は千葉大学医学部のお膝元にもかかわらず、全国レベルからみると、まだまだ医療は低く、今後地域医療の充実と発展が必要であると痛感させられた次第である。

〔幹事、神田芳郎（昭34卒）記〕

安房ぬのはな会

安房ぬのはな会（会長、関谷正一先生、大13卒）総会は、二月二十八日館山市波奈総本店で、岡本昭二教授、水口公信教授、佐藤研一教授、川名正直助教授をお迎えして開催された。総会の後、三教授から学内事情（佐藤教授）の他痛み（水口教授）、エイズ（岡本教授）等、千葉大学の研究の息吹きを感じさせる最新のお話を聞かせた。

懇親会は、白幡静夫先生（昭13卒）の首頭で乾杯し、三教授をそれぞれ取り巻く輪が賑やかに広がった。

過疎地域の為、会員数は目減り

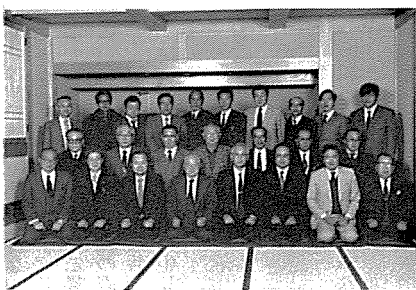
安房ゐのはな会

氣味で（今回出席者は二十二名）、伊佐治尚文氏（昭42卒）、高橋敏信氏（昭52卒）が転出、伊藤 隆氏（昭24卒）が急逝、小倉敬一氏（昭36卒）が昨年四月館山保健所所長として着任されている。

安房医師会関係では、会長小谷庸氏（昭24卒）、副会長本位田泰介氏（昭28卒）が就任三年目を迎えている。安房医師会が拠点とする県内唯一の安房医師会病院は、最も充実した検診を長年にわたり行っていると評価されて昨秋厚生大臣賞を受賞しており、その指導に当たっていた白幡静夫先生は、本年三月千葉県医師会の高木賞を受賞している。



その充実した検診事業に着目している看護学部野尻雅美教授（昭36卒）は、循環器部門のまとめの検診に来院しており、また、県内で初めて行なった昨夏の前立腺検診には、島崎教授が二日間にわたり受診者全員の触診を行い超音波検診と共に注目を集めた。この他第二内科篠宮正樹氏（昭50卒）の



第三内科科稲垣義明教授、齊藤俊弘講師の指導による若年性高血圧指導、第一外科奥井勝二教授の指導による胃集検事業は更に充実への道を歩んでいる。然しながら安房医師会病院は、未だに医師の未充足部門が多いので、今後とも千葉大学の全面的なバックアップを期待する次第である。

〔青木 謹(昭36卒)記〕

中京るのはな会

昭和六十一年三月十九日、名古屋の中心部、納屋橋河畔の名代の「鳥科亭」鳥久」で、久々に中京あのはな会が開催された。昭和六十年春の叙勲に際して内田 孝先生(昭11卒)が勲三等瑞宝章に叙せられ、また九月には松井宣夫先生(昭38卒)が名古屋市立大学医学部整形外科学主任教授に就任された。両先生のお祝いを兼ねて、会員の旧交を温めようとの長老伊藤源一先生のお声がかかりで暫く振りに設営された会合であったが、出席者は十三名、然し紅一点の参加者が花を添えて和やかな集いになった。当夜の最年長者伊藤源一先生の元氣な首頭の乾杯で開宴、自己紹介や近況報告が千葉育ちの医師紹介らしい夫々の人柄を偲ばせ、名古屋コーチンの美味にアルコールも程よくまわり、尽きない懐旧談に時の移るのも忘れて刻值千金の早春の宵を楽しく過した。春秋二回開催してはとか、隣県の岐阜、三

中京ゐのはな会

〔青木 謹（昭36卒）記〕

本年二月五日、元解剖学第二講座客員教授M・W・ヤング博士は高齢のため、米国首都ワシントンにおいて他界された。先生は唯一の国立大学であるワシントン市のハワード大学医学部解剖学教授として、永く勤務され、終戦後まだ日の浅い占領下の日本に、フルブライト交換教授の一人として赴任され、昭和二十七年十月から翌年八月まで、千葉大学で教鞭をとら

M・ホワートン・ヤング

群馬大学校
黒

先生にて
先座の
グランド
ヤング海
里砂浜
中央氏
中吉壽
筆地
右左

重の同窓にも案内して東海地区の親睦を進めては等々の貴重な意匠に応えるべく、幹事一同努力する所存である。

出席者 伊藤源一(昭5卒)、近藤素生(昭6卒)、内田孝(昭11卒)奥村都郎(昭11卒)、住田満也(昭12卒)、林武夫(昭12卒)、吉村善郎(昭15卒)、大橋平治(昭24卒)佐々木三雄(昭26卒)、米本昭彦(昭29卒)、松井宣夫(昭38卒)、市川清子(昭41卒)、岩間汪美(昭43卒)

(吉村善郎記)



右：筆者、中央：ヤング先生、
左：菊地吉寿氏。黒砂海岸にて

授

住 一 昌 (昭24卒)

れた。第二解剖の当時の主任森田秀一教授の熱心な招きによる来学で、故森田教授の新しい時代の解剖学の輸入に熱心であったことの裏りであった。このことは当時としてはやく電子顕微鏡を導入された先生の態度にもみられる所である。

ヤング教授は視床の線維連絡を研究されていたが、千葉へ来られた前後は特に内耳の構造に興味をもたれ、解剖学会のみならず耳鼻科の学会でも講演され、また禿頭(老人性脱毛)の原因についてユニークな考えをもって、皮膚科学会でも講演された。当時、講演の通訳をつとめられたのは、現脳神経外科学教授の牧野博安氏であった。ヤング教授は内耳の微細構造について、筆者を助手として千葉大でも実験を重ね、コルチ器官の蓋膜が有毛細胞に密着しているという新説を出された。当時の諸学者は半信半疑で聞いたものだったが、この説は現在電子顕微鏡で実証されている。

ヤング教授は黒人と白人の混血なので、苦勞しながら學問には恵み医師となったが、経済的には恵まれない解剖学を専攻したと語っておられた。黒人特有の明るい性格に似つかわしくない熱心な研究態度、懇切丁寧な講義は一年近くの滞在の間に、千葉大学の学生や若い教職員に好学の精神を植へつけて帰国された。ヤング先生の安らかな眠りを祈るものである。

クラス会だより

昭八会クラス会

千葉医科大学の学生時代に毎年5月に大学祭があった事を懐かしんで、昭和8年入学の私共のクラスは、本年も5月11日(日)に東京新宿の「柿屋」古今サロンで昭八会例会を開催した。

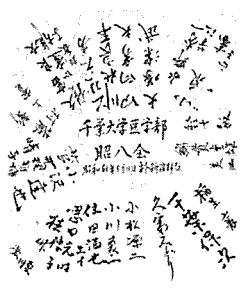
この一年間に亡くなった人が一人も無かったのは何よりで、卒業時82名のクラスメートの内、一昨年来までの物故者37名の方々に哀悼の意を表し、御冥福を祈って、本年度幹事小泉 寿君の開会の挨拶に続いて、一同黙祷を捧げた。

出席者は30名、内、夫人が10名で、遠く札幌から水野秀一君夫妻、名古屋から住田満也君夫妻をはじめ、寝屋川の上野元男君、船橋の村上 実君など久しぶりの級友も元気な顔を見せ、綿貫重雄君の乾杯の音頭でお互に健康を祝し合い、懐旧談に時の経つのを忘れ、初対面の奥様方も直ぐに打ちとけて、



心温まる楽しい会であった。

明年(昭和六十二年)は、卒業五十周年に当たる記念すべき年なので、「昭八会五十周年誌」を作る計



こだま

川鉄病院だより

院長 大西 盛光 (昭24卒)

当院は昭和四十一年四月に開院、今年で丁度、満二十周年を迎えました。経営母体は川鉄関連企業により構成された健康保険組合で、病院の正式名称は川崎製鉄健康保険組合千葉病院で、通常、川鉄病院と称しております。所が、昭和五十八年、岡山東水島地区に新しく会社直営の川鉄水島病院が開設され、これも地元では川鉄病院と呼んでおり、また、千葉製鉄所内には労働部の健康管理センター(かつての医務課)があつて、部外者にかかりの混乱を与えているようであります。

千葉川鉄病院の規模は開院当初二二六床でしたが、途中、二回程増・改築して現在、三三三五床になつております。外来部門は診療科目十四で、午前中は一般外来とし

面を立て、みんなで原稿を書くことを申し合せて、明るい希望を抱いて散会した。

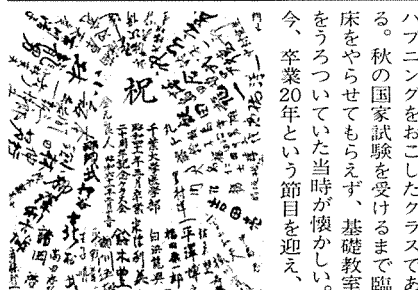
(追記) 日向秀夫君のご努力によつて、志村 保君の消息が判りました。住所：〒220横須賀市西区霞ヶ丘75 勤務先：中伊豆温泉病院(静岡県中伊豆町)

(庶務会計幹事 久富良次記)

昭41卒クラス会

昭和41年卒業生は卒業20周年を記念し、去る2月15日千葉市「ほてい家」にてクラス会を開催した。

昨年10月同級生としては初めて他界した島田孝男君の冥福を祈った後、学生時代に世話になった名誉教授の柳沢利喜雄先生、小林龍男先生、北村 武先生、横川吉田亮医学部長、本間三郎教授および「軍曹」こと斎藤新一郎教授係長を囲んで同級生47名が和やかに歓談した。これまで三回ほどクラス会を開催したが、これほど集ったのは初めてであり盛会であった。我々はインターン紛争のさ中に医師国家試験の会場より退出という



ハブニングをおこしたクラスである。秋の国家試験を受けるまで臨床をやらせてもらえず、基礎教室をうろついていた当方が懐かしい。今、卒業20年という節目を迎え、

【里村洋一、福田康一郎記】

揺れ動く大学入学試験

来年度より、

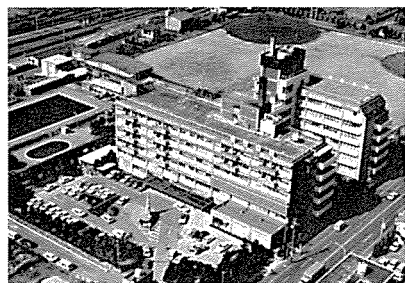
受験機会の複数化など

臨時教育審議会の活動を中心として、急激に様々の教育改革が進められようとしているなかで、殊に大学の入学試験の改革が突出した形となった。以下、村山教務委員長に大綱を聞いた。

来る昭和六十二年度から変わる要点を挙げれば、共通一次試験の内容が今までの5教科7科目から5教科5科目に減ること、国立大学の受験機会の複数化である。共通一次試験の科目減が果たして受験生の負担を大幅に減らすかどうかかわからないが、すくなくとも二次試験の内容の選択にもかかわり、また当然ながら一次、二次試験の配点の問題に関連して来る。受験機会が増えることも全ての受験生にとって有利であろうか？

本学の場合、二次試験の時期については二転三転した結果、東大や医科歯科大学と同じグループで行うこととなつたが、それにしても受験者数の増加は免れず、今まで実際には一度も行わなかった「第一次選抜(足切り)」を実施せざるを得なくなるかも知れない。入学試験方法にこれがいというものはないと考えられる状況下で、国立大学協会の腰の据わった動きが強く要求される。

現在、日本整形外科学会、日本脳神経外科学会、日本眼科学会など



外科四名、産婦人科四名、小児科

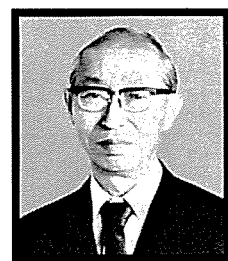
の認定医修練施設の指定を受けて

福田篤郎名誉教授を偲んで

本 田 良 行

(金沢医大・昭25卒)

福田先生は、昭和九年東京帝国
大学理学部動物学科を卒業後、大
学院に進学されましたが、医師と
して家業を継ぐことを決心し、千
葉医科大学に入學されました。し
かし、生物学に対する興味は絶え
ることなく、昭和十五年卒業後直
ちに生理学教室に入局され、研究
者として歩み始められました。



先生は、昭和二十年の空襲で研
究室の機器一切を
失ったのを契機と
して、電気生理学
から労働生理学を
中心とする応用生
理学へと研究の方
向を転換されました。

昭和二十七年、第二生理学講座
の主任教授に昇任された頃より、
労働と高血圧の関連に着目され、
東北や関東の農村の高血圧多発地
帯で、我が国最初の大規模な組織
的集団検診を実施され、各方面よ
り注目を集めました。

昭和三十六年頃から、副腎を中
心としたストレスの生理学、特に
実験的ショックの成因機構の解明
に努力されました。これらの一連
の研究成果は雑誌Nature等に発表
され、専門誌Circulatory shock
の編集委員に推薦されるなど、国
際的にも高い評価を受けられまし
た。教室での先生は常に明朗、率
直で、一度アイデアを得るや教室
の先頭に立って研究を推進され、

多くの画期的業績を残されました。
この間、昭和四十年頃より激し
さを加えてきた大学紛争の嵐の中
で、先生は事態收拾のため、持ち
前の一本気の性格から心労を重ね
られる日が続きました。昭和四十
四年一月一日、先生は脳溢血の発
作に襲われ、一時は絶望とも思わ
れましたが、本学医師団の献身的
な加療により一命をとりとめられ
ました。しかし、
ついに教室主任と
して再起すること
はできず、昭和五
十年に定年まで一
年半を残して、六
十三才で退官され
ました。

その後は小康状態が続き、昭和
五十九年秋、勲三等旭日中綬章の
叙勲に際しては車イスで授与式に
出席される程お元気でした。しか
し、昨春、嚥下性肺炎に罹られて
からは、しばしば入院を繰り返さ
れ、終に本年四月二十一日、腎
不全の為、多くの関係者に見守ら
れながら安らかに永眠されました。
発病以来、実に十七年に及ぶ闘病
生活でした。つつしんでご冥福を
お祈りする次第であります。

(第二生理学講座、教授)

故福田名誉教授の御遺族より

猪之鼻奨学会に御寄付

去る四月二十一日御逝去された
故福田篤郎千葉大学名誉教授の御

遺族を代表して、貞子未亡人より
先生のご遺志として、財団法人、
猪之鼻奨学会に金百万円のご寄付
があった。本奨学会ではこの金員
を有難く頂くとともに、猪之鼻奨
学会会長萩原彌四郎教授より感謝
状を御遺族に差し上げ、永く記録
にとどめると同時に後進の研究者
の育成に利用させて頂くこととした。

猪之鼻奨学会は大正四年千葉医
専校長、三輪徳寛教授が中心とな
って設立されて以来、七十余年の
歴史を有している。その変遷につ
いては、昭和43年に鈴木正夫先生
が『千葉大学医学部八十五年史』
に、また昭和53年に松本 胖先生
が『千葉大学医学部百年記念誌』
にそれぞれ詳述されておられる。
本奨学会は、その設立の主旨に
より医学部および薬学部を対象と
して次の事業を行っている。
1、若年研究者に対する研究補
助金の贈呈。
2、学生に対する奨学金の貸与。
前者は教授会に推薦を依頼し、一
件三十万円を贈呈しているが、今
年度は医学部四名、薬学部一名に
贈られる予定である。研究補助金
を受けた者は千葉医会誌等に研究
報告を行う事が義務づけられる。
後者は特に学費の欠乏している
学生の申請を受け、年収、家族構
成から見て妥当と判断された者若
千名に対し、授業料相当額を貸与
している。貸与金は卒業後なるべく
早い時期に返納する事が望まれ
ている。ちなみに昨年度は五名が
貸与を受けている。
これらの金額は奨学会財産の利
子から支出されるので、この事業を

一層促進するため、猪之鼻奨学会へ
の篤志のご寄付をお待ちしている。
〔財団法人 猪之鼻奨学会〕
公衆衛生学生実習
アンケート調査のお礼
医学部三年生に対する公衆衛生
学実習の一環として、『千葉大学
医学部卒業生の進路調査』を昨年
暮、昭30、35、40、45、50卒のク
ラスの先生方(四五六名)を対象
に行いました。回収率は約50%で
したが、卒業時に選んだ科目が昭
和40年までは外科系が多かったの
にくらべ、最近では内科系専攻希
望者が増えている、二年間の初期
研修は七割近くの人が満足であつ
たと回答している等、興味ある調
査結果が得られました。御多忙中
にも拘らず、御協力下さいまして
誠に有難うございました。本年度
中には学生実習報告集として出版
する予定であります。

人事異動
〔公衆衛生学講座教授 吉田 亮〕
昭和61年4月1日～5月31日
昇任
小川道一氏(昭31卒)内
科学第三講座より電
気通信大保健管理セ
ンター
三枝健二氏(東理大、昭
30卒)放射線科学講
座より都立衛生技術
短大診療放射線学科
鈴木信夫氏(昭47卒)生
化学第二講座
増田善昭氏(昭35卒)内
科学第三講座

講 師 西川哲男氏(昭47卒)内
科学第三講座
退官 渡辺昌平氏(昭20卒、教
授、肺研第二臨床部
門)千葉労災病院長
徳政義和氏(昭24卒、
講師、内科学第二講
座)開業

計 報

宮山 佳久氏 (昭15卒、昭60年1月逝去)	柳田 昭二氏 (昭34卒、昭61年4月1日逝去)
藤原 秀人氏 (昭14卒、昭60年3月5日逝去)	兵頭 初治氏 (大5卒、昭61年4月4日逝去)
中谷 譲氏 (昭19卒、昭60年5月逝去)	宮軒安太郎氏 (大14卒、昭61年4月5日逝去)
白田 敬一氏 (昭20卒、昭60年9月22日逝去)	堀 和平氏 (昭4卒、昭61年4月19日逝去)
中村 弘氏 (大11卒、昭60年10月逝去)	福田 篤郎氏 (昭15卒、昭61年4月21日逝去)
宇高 義夫氏 (昭51卒、昭60年12月30日逝去)	関根 信義氏 (昭11卒、昭61年4月25日逝去)
岡田 輝弥氏 (昭17卒、昭61年1月13日逝去)	金木 良夫氏 (昭42卒、昭61年4月25日逝去)
志方 一郎氏 (大10卒、昭61年1月23日逝去)	門脇 富治氏 (昭6卒、昭61年5月23日逝去)
内山 信氏 (昭7卒、昭61年2月6日逝去)	森 澄夫氏 (昭26卒、昭61年5月24日逝去)
角江 重雄氏 (大10卒、昭61年2月9日逝去)	小林 一夫氏 (昭57卒、昭61年5月29日逝去)
伊藤 隆久氏 (昭24卒、昭61年3月2日逝去)	
菊池 正己氏 (昭18卒、昭61年3月2日逝去)	
猪野 家憲氏 (昭17卒、昭61年3月8日逝去)	
近藤 勉三氏 (昭7卒、昭61年3月24日逝去)	
朝岡 唯夫氏 (昭3卒、昭61年3月24日逝去)	

編集後記

☆本号は六月発行の予定で編集を進めておりましたが、医学部長選挙の結果も掲載する方針に急きよ変更した為に、発行が七月にずれ込んでしまいました。
☆はじめじめした梅雨のうっとうしさを吹き飛ばす様に、玉置哲也助教授(昭38卒、整形外科科学講座)の和歌山県立医科大学教授決定、またKawaguchi Diseaseで世界的に知られている川崎富作先生(昭23卒、日赤中央病院小児科部長)のペーシング・北里賞受賞という明るいニュースが編集部に届きました。
☆次号の発行は九月の予定です。(徳永 毅)